

主催：洗足学園音楽大学・大学院

2021 年
9 月 1 日(水)

開場 17:30 開演 18:00

会場 洗足学園 前田ホール

Amabile

～乙女座の輝く夜に～

学内リサイタル講座第 1 公演
ジョイント・リサイタル

サクソフォン

1. 藤堂 紗也

ピアニスト
大嶋 千暁

トロンボーン

2. 櫻井 美湖

ピアニスト
岡南 健

電子オルガン

3. 古賀 美咲

マリンバ

4. 吉野 萌

ピアニスト
林 英希

休憩 10 分

(18:46 頃予定)

ファゴット

5. 前澤 美里

ピアニスト
森 りか

サクソフォン

6. 倉元 明宏

ピアニスト
羽石 道代

ピアノ

7. 石崎 美希

新型コロナウイルスが一日も
早く終息しますように…。

Amabile × Amabile
妖怪アマビエ
疫病退散にご利益がある

- 1 A. グラズノフ / サクソフォン協奏曲
Aleksandr Konstantinovich Glazunov (1865-1936) // Concerto for Alto Saxophone and String Orchestra
- 2 B. アッペルモント / トロンボーン協奏曲「カラーズ」
Bert Appermont (b.1973) // COLORS for Trombone
第 1 楽章 YELLOW 第 2 楽章 RAD 第 4 楽章 GREEN
- 3 P. チャイコフスキー / 幻想序曲「ロミオとジュリエット」
Peter Ilyich Tchaikovsky (1840-93) // Fantasy Overture 'Romeo and Juliet'
- 4 福田 洋介 (b.1975) 監修：田村拓也 / さくらのうた
安倍 圭子 (b.1937) / マリンバ・ダモーレ
- 5 C. サン＝サーンス / ファゴット・ソナタ作品 168
Camille Saint-Saens (1835-1921) // Sonate pour Basson et piano op.168
第 1 楽章 Allegro Moderato 第 2 楽章 Allegro scherzando 第 3 楽章 Molto adagio-Allegro
- 6 L.E. ラーション / サクソフォン協奏曲
Lars-Erik Larsson (1908-1986) // Concerto for Alto Saxophone and String Orchestra
- 7 L. ルジツキ / 《イタリア》 作品 50 より
第 1 番 アヴェ・マリア 第 3 番 舟歌
Ludomir Rozycki (1884-1953) // Italia op.50
1. Ave Maria 3. Barcarolle

△ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Greeting

本日は学内リサイタル講座「ジョイント・リサイタル」においでいただき御礼申し上げます。洗足学園音楽大学のメインステージの前田ホールで、大学4年間の集大成の演奏を披露するために選抜学生42名による6回のジョイント・リサイタルを開催する運びとなりました。各出演日の学生がそれぞれの思いで、プログラムや副題を決め、この日の為に準備をしてまいりました。専門コースの違いはあっても大きな会場で初めてのリサイタルを行う「責任と研究成果」を聴いていただければ大変な喜びとなります。出演学生が、その独自の構成と演出を競い、教員の講評審査を受けてこの舞台から巣立ち、現在は欧米各地に留学しコンクール入賞者や、国内外オーケストラ、教員、プレーヤーとして活躍する卒業生も多く、本学の講師として活躍するものもいるという喜ばしい実績を持っております。この演奏会を基に日本の、そして世界の楽壇へと羽ばたく彼らに応援の拍手をお願いいたします。

学内リサイタル講座 教授 渡部 亨

本日は、学内リサイタル講座「後期第1回 ジョイント・リサイタル」にご来場くださり、誠にありがとうございます。コンサートを開催することが困難になってしまったこの時代の中で、こうしてお客様と同じ空間でひとつの音楽を共有できること、大変嬉しく思います。出演者一同、演奏できる喜びを日々噛み締めながら今日の為に準備をして参りました。このリサイタルを開催するにあたり、ご尽力頂きました渡部先生をはじめとする全ての皆様に心より御礼申し上げます。心配事の多い世の中ですが、本日のリサイタルのタイトルにもあるように初秋の夜に広がる美しい星空の様に皆様の心を癒すことが出来たら幸いです。そして各楽器、奏者の持つ魅力が溢れる唯一無二の世界を最後までご堪能ください。

第1回学生代表 前澤 美里

Program

1 藤堂 紗也 (Saxophone)

A. グラズノフ / アルト・サクソフォーンと弦楽オーケストラのための協奏曲

若くして音楽の才能を開花させたグラズノフ(1865-1936)だったが、晩年、彼の創作意欲は低下し、パリへと亡命した。そのような時期に作曲されたこのサクソフォーン協奏曲は、亡くなる直前1936年にパリ西部近郊の都市で出版された。サクソフォーン協奏曲としては最初期に作られ、現在での演奏回数も随一のこの曲は、当時を代表するサクソフォニストの1人シガード・ラッシャー(1907-2001)に献呈されている。単一楽章でかかれているが全体は大きく3つの部分に分かれており、古典的な協奏曲のスタイルである3楽章構成とみることができる。

【Profile】

藤堂 紗也(とうどう さや)

香川県善通寺市出身。香川県立丸亀高等学校卒業。12歳よりサクソフォーンを始める。これまでにサクソフォーンを石川愛、天造智子、國末貞仁の各氏に、室内楽を江川良子、本堂誠、大和田雅洋の各氏に師事。

2 櫻井 美湖 (Trombone)

B. アッペルモント / カラース

I Yellow (第1楽章 イエロー)

II Red (第2楽章 レッド)

IV Green (第4楽章 グリーン)

あなたの好きな色はなにか?と聞かれたら皆さんはなにを思い浮かべるだろう。この曲は、数ある色の中からいくつかを取り上げ、色の特徴や色から連想されるもの、感情を表現している。1楽章イエローは、人を鼓舞して快活にするような美しい伴奏から引き継ぎ、トロンボーンの輝かしくも繊細なメロディで幕を開ける。2楽章レッドはグリッサンドに始まり、進み続ける音楽はリズムカルに演奏される。4楽章グリーンはピアノも力強く加わり、大樹のような壮大な音楽で幕を閉じる。さて、目まぐるしく

移り変わる色(音楽)に、お聴きになる皆様は何を感じ、どのような思いになっただろうか。今宵の色を存分にお楽しみいただきたい。

【Profile】

櫻井 美湖(さくらい みこ)

栃木県出身。栃木県立真岡女子高等学校出身。9 歳からトロンボーンを始める。トロンボーンをこれまでに、栗田雅勝、米田靖彦の各氏に師事。ピアノを、浅野真弓、高橋貴子の各氏に師事。

3 古賀 美咲 (Electric organ)

P.チャイコフスキー / 幻想序曲『ロミオとジュリエット』

『ロミオとジュリエット』は身分の違う 2 人が恋に落ちる恋愛悲劇の物語。シェイクスピアの戯曲が題材。第一主題は 2 人の家系の諍いを表し、激しい楽器の掛け合いが力強い場面。第二主題は 2 人の恋を描いている。2 つの主題を巡る中で 2 人の葛藤や悩む様子などを感じる。クライマックスはジュリエットが亡くなったと勘違いしたロミオの心情を表すかのように盛り上がり、その後のティンパニの 1 音で 2 人が続けて自死したことを表している。終結部はティンパニが心臓の音を表し、その後天に召される 2 人の様子を奏で、最後はトゥッティの緊迫した和音で終わる。

【Profile】

古賀 美咲(こが みさき)

宮崎県出身。宮崎学園高等学校出身。

第 20 回記念九州音楽コンクール審査員特別賞。エレクトーンフェスティバル 2017 宮崎県大会入賞。これまでに電子オルガンを大石純子、小倉里恵、岩崎孝昭の各氏に師事。

4 吉野 萌 (Marimba)

福田 洋介 / さくらのうた

《さくらのうた》なのに、なぜ夏に選曲したのか。それは、毎年夏に行われる吹奏楽コンクールと深い関係があるからだ。この曲は 2012 年度吹奏楽コン

クール課題曲 I。まるで課題曲とは思えない程どこか悲しい旋律が印象的だ。夏、たった数分の本番の為に学生たちは何十時間も練習する。コンクール後は余韻に浸りながらも、最終的に別の道に進む。それは咲いて散るまでの、サクラのようだと思うのは私だけだろうか。

安倍 圭子 / マリンバ・ダモーレ

この曲は、J.P.マルティーニ(1741-1816)の《愛のよろこび》がモチーフとなっている。作者は大学生の頃、この曲を題材にマリンバ作品を作ろうとした。しかし、人生において多くの経験を積み、色々な愛を知ったうえでこの曲を作ろうと決め、61 歳の時に完成された。

私はまだ 21 歳。若さ溢れる愛で表現したい。

【Profile】

吉野 萌(よしの もえ)

千葉県出身。千葉県立小見川高等学校卒業。

第 23 回長江杯国際音楽コンクール打楽器部門最高位。大学にて前田記念奨学金、前田音楽奨励賞を授与。マリンバを神谷百子、椎名友樹、打楽器を佐藤由、室内楽を山本晶子、中村祐子、石井喜久子の各氏に師事。

5 前澤 美里 (Fagott)

C.サン＝サーンス / ファゴット・ソナタ作品 168

第 1 楽章 Allegro moderato

第 2 楽章 Allegro scherzando

第 3 楽章 Molto adagio-Allegro moderato

本作品は、サン＝サーンスが亡くなった 1921 年に作曲された、彼最後のソナタ。ごくシンプルなピアノがファゴットのあたたかい音色を最大限に引き立て、まるで童心に返ったかのような純粋さが心に沁みる。ピアノの繊細な音形に乗ってファゴットが伸びやかに歌う 1 楽章、跳躍を得意とするファゴットの特色が生かされる 2 楽章、シンプルな伴奏の上で、ファゴットがふんだんに装飾された旋律をモルト・アダージョで歌い継いだ後、一転して快活なアレグロ・モデラートの曲想から成る 3 楽章で曲全体

が締め括られる。

【Profile】

前澤 美里(まえざわ みさと)

静岡市立清水桜が丘高等学校出身。第 37 回静岡県学生音楽コンクール入選。第 20 回日本ジュニア管打楽器コンクール第 3 位。第 6 回 K 木管音楽コンクール準優秀賞受賞。これまでにファゴットを石川晃、岡本正之、吉田誠、室内楽を辻功、山根公男の各氏に師事。現在、オーケストラ特待生として本学在籍。

6 倉元 明宏 (Saxophone)

L-E.ラーション / サクソフォン協奏曲

ラーシュ＝エリク・ラーション (1908-86) は、スウェーデンの作曲家である。

1934 年に、この「サクソフォン協奏曲」は作曲された。この作品にはサクソフォン奏者であるシガード・ラッシャー (1907-2001) が深く関わっている。彼はドイツに生まれ、サクソフォン奏者として世界的なパイオニアだった。ラッシャーはそれまでのサクソフォンの音域を大きく上回る、フラジオと呼ばれる倍音奏法を生み出した。そして、ラッシャーのアドバイスを受けて作曲されたこの作品も、フラジオ奏法がふんだんに使われている。本日は第 1、2 楽章を演奏する。

【Profile】

倉元 明宏(くらもと あきひろ)

神奈川県出身。三浦学苑高等学校卒業。

第 5 回 K サクソフォーンコンクール、特別優秀賞受賞。第 15 回くらしき国際サクソフォーンコンクール大学生・一般の部、第 1 位受賞。第 25 回浜松国際管楽器アカデミーにて Jean-Yves Fourmeau 氏のクラスを受講。須川展也、Claude Delangle 各氏のマスタークラスを受講。これまでに、サクソフォーンを貝沼拓実に師事。室内楽を江川良子、本堂誠、池上政人の各氏に師事。

7 石崎 美希 (Piano)

L.ルジツキ / 《イタリア》作品 50 より

第 1 番 アヴェ・マリア

第 3 番 舟歌

4 曲で構成されたピアノのための組曲。人物や風景、文化などイタリアの様子を題材としている。後期ロマン派の音楽だが、ドビュッシーやアルベニスのような無調的、平行和音の扱いもみられる。

第 1 番 アヴェ・マリアはノスタルジックな雰囲気を感じさせる作品。人々の祈りを繊細に表している。第 3 番 舟歌はヴェネツィアのゴンドラ漕ぎの歌が由来と言われている。8 分の 6 拍子で軽快な動きを伴い、波や水の反射が刻々と変化していく様子を表している。ヴェネツィア共和国の元首の妻を描いた音楽的な肖像画とも言える作品であり、メロディーとリズムによって喜びが溢れた表情がアヴェ・マリアとは対照的に表されている。

【Profile】

石崎 美希(いしざき みき)

栃木県出身。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科卒業。5 歳よりピアノを始める。2021 年度ピアノコース特別選抜演奏者認定。3 年次より指導者養成クラスに在籍。これまでにピアノを小久保素子氏、ソルフエージュを高鳥舞氏に師事。現在ピアノを江崎昌子氏に師事。